

# 概要版 万博を契機に挑む! 自治体を中心とする取組み成果事例集



大阪・関西万博 公式キャラクター  
ミヤクミヤク



北海道浦幌町



福井県



石川県



山形県遊佐町



島根県江津市



新潟県



西のゴールデンルート



静岡県浜松市



宮崎県えびの市



兵庫県三木市



兵庫県西宮市

令和7年12月

内閣官房国際博覧会推進本部事務局

©Expo 2025

## 【万博を契機とした取組の全体像】

### ■万博を契機とした取組の3つの始まり方

万博が地域にもたらした取組みの実現は、その「きっかけ」のあり方によって、大きく3つのタイプに整理される。

タイプ	特徴	事例・機能
きっかけ創出型	・元々明確な計画はなかったが、「万博があるから何かやってみよう」という思いから立ち上がった取組である。	・観光PRや物産展、情報発信など、「試行の場」として活動が具体化された。 ・万博というイベントが、地域の小さな一步を後押しする装置として機能した。
行動具体化・顕在化型	・以前から構想や課題意識があったものの、なかなか実行に移せなかつたテーマについて、万博が「締切」と「旗印」となり、計画づくり・体制づくり・予算確保が一気に進んだ。	・既存構想を具体的な事業として可視化・高度化させる「加速装置」として万博が機能した。
ネットワーク共創深化型	・もともと観光振興や国際交流などに取り組んでいた自治体・団体が、万博を機に、他自治体・企業・大学・海外都市とのネットワークを広げ、共創の枠組みを強化した。	・「連合」「協議会」「アライアンス」といった形で広域連携が体制化され、万博閉幕後も継続するプラットフォームがレガシーとして形成された。

### ■5つのテーマ別にみる特徴と効果

万博を契機とした各地域の取組は、単なるイベント対応ではなく、「観光」「産業」「人材」「協働基盤」「官民連携・イノベーション」という5つのテーマごとに、それぞれ固有の狙いと成果を生み出している。それらは個別のプロジェクトでありながら、いずれも人・経済・地域の3つのレイヤーでつながりを強化し、地域の将来像を具体化するプロセスとして機能している点に共通性がある。

とりわけ注目すべき点は、これら5つのテーマがそれぞれ独立した分野施策として完結するのではなく、互いに連鎖し合うことで、地域の「稼ぐ力」と「支え合う力」と「未来を担う力」を同時に底上げしていることである。観光で生まれた関係人口が産業や人材育成の土台となり、協働基盤や官民連携・イノベーションの仕組みがそれらを受け止めて拡張するという循環構造が形づくられつつあり、万博を契機とした取組は、地域社会の総合的な変容を生み出すトリガーとして位置づけられる。

※各テーマの自治体による取組の具体例は「事例研究編」を参照



## 【観光・地域プロモーション】：関係人口とファンを増やす

祭り・食・伝統文化・自然などを万博というショーケースで発信し、「一度来る観光客」ではなく、何度も地域に関わる関係人口やファンを増やす取組が中心となった。

リアル体験型の観光プロモーションを通じて、来場者に「地域と一緒に新しい価値をつくる」関係性を提示することで、単なる情報発信ではなく双方向の価値創造を目指している。

効果	内容
人のつながり	・関係人口・ファンが増え、リピート来訪や口コミが広がることで、地域への愛着と参加意欲が高まった。
経済のつながり	・継続的な訪問・消費・物産購入が生まれ、観光収入の増加や将来の来訪・消費への期待が高まった。
地域のつながり	・共同プロモーション・広域ルート形成により、エリア全体の認知度とブランド価値が向上し、「選ばれる観光圏」としての存在感が増した。

### （個別事例）

自治体名 ・団体名	取組概要	
石川県	<p><b>【地域の結束力向上・復旧から復興への契機】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・能登半島地震等の被災を経て、県内 19 市町が連携し「石川の日」を開催。</li> <li>・祭りと食文化のリアル体験を通じて、石川県のファンや関係人口を国内外で広げるとともに、復興への感謝と前向きな姿を発信した。</li> <li>・国内外への発信効果に加え、県内の地域間連携の促進、来場者とのリアルな交流から生まれた新たな可能性と価値の再発見により、復興促進の加速にもつながる意義深い取組となった。</li> </ul>	
西のゴールデンルート実行委員会	<p><b>【広域連携による付加価値向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西日本・九州への誘客を目的に 11 のモデルルート（ロングルート 3 本、ショートルート 8 本）を造成し、欧米豪旅行客一人ひとりに合わせた旅程をコンシェルジュやトラベルデスクからご提案。</li> <li>・パネル展示や映像、絵巻物配布と連動キャンペーンを通じて、西のゴールデンルートの認知および関係人口の拡大を図るとともに、旅行者の新たなニーズ把握にもつながった。</li> </ul>	



### 【産業・商品開発】：地域産業のアップデート

日本酒、ものづくり、農産物など既存産業を、万博向けの新商品・体験コンテンツとして編集し直し、販路拡大や新市場開拓につなげる取組が進んだ。単発のイベント出店ではなく、プロジェクト運営を通じて新しいビジネスモデルやパートナーシップを試す場となった。

効果	内容
人のつながり	・生産者・蔵元・研究者・学生が協働することで、技術継承と若い担い手の育成が進み、つくり手コミュニティの誇りとモチベーションが高まった。
経済のつながり	・新規顧客・取引先・支援者とつながり、販路拡大・新商品の共同開発といった具体的な経済効果が生じた。
地域のつながり	・産地間連携や企業×自治体×大学の連携により、「エリアブランド」としての位置づけが強まった。

#### （個別事例）

自治体名	取組概要
新潟県	<p><b>【産官学連携による地域産業振興】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県立醸造試験場や新潟大学日本酒学センター等と連携し、県内 89 蔵が一体となって日本酒産業を未来仕様へアップデートする産官学協働体制を構築。</li> <li>・万博限定清酒「NIIGATA SAKE breweries90」の開発・発信を通じて、伝統的な清酒づくりに研究成果や新たなデザイン・ストーリー性を組み合わせ、若年層やインバウンド層にも響く新市場を開拓することで、酒どころ新潟の産業構造を次世代型へ転換するモデルを示した。</li> </ul>
兵庫県三木市	<p><b>【海外との共創による地域産業の進化】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・刃物産地として培ってきた職人技に、フランス人デザイナーによる先進的なデザインや自治体職員による伴走型ブランディング手法の掛け合わせを行い、地場産業を未来仕様にリデザイン。</li> <li>・職人との協働により万博限定の高付加価値ナイフを企画・販売することで、世界を見据えたブランド発信と販路拡大を実現し、三木の刃物産業を「伝統工芸」から「グローバル市場を狙うクリエイティブ産業」へと進化させる足掛かりとなった。</li> </ul>

### 【人材育成】：子どもの未来と若者の役割づくり

万博を題材にした探究学習や国際交流プログラム、ボランティア活動などを通じて、子ども・若者が「地域と世界に関わる当事者」として参加する機会が急増した。

親世代と異なる「地域への関わり方」と「キャリア選択肢」を具体的に提示する取組となった。

効果	内容
人のつながり	・地域と世界の多様な人びととつながることで、シビックプライドと「自分も関わる」という当事者意識が育った。
経済のつながり	・若者と企業・自治体・NPO の協働により、インターンや就職など、学びから仕事への橋渡しが増え、地域人材と地域企業の好循環が生まれた。
地域のつながり	・学校・自治体・企業・大学・国際機関が教育プログラムを共につくることで、「子どものみらい」を地域ぐるみで支える体制が整った。

(個別事例)

自治体名	取組概要
山形県遊佐町 ・宮崎県えびの市	<p><b>【共通の課題を持つ地域が連携した国際交流】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方の高校生が「地域から世界へ」と羽ばたくきっかけをつくるため、遊佐高校と飯野高校が連携してマダガスカル共和国との国際交流プログラムを実施。</li> <li>・マダガスカルの学生との共同生活やフィールドワークを通じて、教室を越えたリアルな学びを提供。「自分の将来を自分で切りひらく力」と「異なる環境の中でも共に学び合える」ことを体感させた。自治体と地域おこし協力隊、「みらいハイスクール構想」との連携により交流が実現。継続的な交流の土台も創出できた。</li> </ul>
北海道浦幌町	<p><b>【地域振興のプラットフォーム構築】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中山間地でも子どもがまちの真ん中に立てる社会をめざし、「うらほろスタイル」を土台にマリ共和国との交流やJICA研修を展開。</li> <li>・子どもたちが海外の仲間と対話し、自分たちのまちの価値を言葉で伝える経験を重ねることで、地域に誇りを持つ次世代リーダーを育成するとともに、「小さなまちから世界とつながる」若者の役割づくりを実現した。</li> </ul>

**【地域協働基盤形成】：コミュニティを支える「器」づくり**

自治体・NPO・企業・大学・国際機関などがネットワーク型で連携する協議会やアライアンスが立ち上がり、プロジェクトを支える「場」と「関係性」の基盤が整えられた。

万博後も動き続ける広域連携の枠組みが、地域づくりの共通基盤として機能し始めている。

効果	内容
人のつながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な主体が協議会に参加することで、顔の見える信頼関係が蓄積され、課題が起きた際に声を掛け合える関係性が生まれた。</li> </ul>
経済のつながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな商談や投資機会が継続的に生まれ、地域企業と海外企業との経済的なつながりが強化されつつある。</li> </ul>
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通の器として機能することで、万博後も新しい企画や連携が次々と立ち上がる、自走型の地域協働基盤が形成された。</li> </ul>

(個別事例)

自治体名	取組概要
静岡県浜松市	<p><b>【「ものづくりのまち」としての国際発信】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業ツーリズムや海外連携をきっかけに、市内企業・大学・行政・市民がゆるやかにつながる「産業コミュニティの器」を、万博を契機に設計。</li> <li>・海外企業・メディアの視察受け入れや文化イベントなどを通じて、人や情報・投資が行き交う回路をまちの中に埋め込み、万博後も地域産業と市民を支え続ける国際連携の土台づくりを進めた。</li> </ul>
兵庫県西宮市	<p><b>【環境学習を通じたまちづくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境学習を軸に、NPO・学校・行政が連携して、子ども同士の国際交流と地域内の学びの場を広げる協働基盤を強化した。</li> <li>・単発のイベントで終わらせらず、甲子園浜でのフィールドワークや学校交流などを継続的に組み合わせることで、万博後も市民が環境課題に主体的に向き合う参加型の仕組みづくりへと発展させた。</li> </ul>

## 【官民連携・イノベーション／SDGs】：未来社会を試す共創実験

VR・メタバース・ライブ配信等のデジタル技術と、SDGs や国際協力のテーマを掛け合わせ、官民・国内外が一緒に「未来のサービス・学び・観光のかたち」を試すプロジェクトが多数生まれた。

これらは、地域課題を解く「実験の場」であると同時に、新しい共創モデルを学ぶ「教室」となった。

効果	内容
人のつながり	・自治体・企業・スタートアップ・大学・国際機関・市民が同じテーマで共創し、新しい組み合わせのチームが生まれ、国際協働・官民連携の経験値が蓄積された。
経済のつながり	・実証事業や共同サービス開発から、新規ビジネスやサービス、投資の可能性が見えるようになり、地域課題と市場ニーズをつなぐ新たな経済循環が立ち上がった。
地域のつながり	・SDGs・国際協力・DX などを共通言語に、官民・国内外を越えたネットワークが形成され、「未来社会を一緒につくる地域」としてのブランド価値が高まった。

### （個別事例）

自治体名	取組概要	
福井県	<p><b>【官民連携による嗅覚を使った観光促進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福井県は 2024 年 8 月に日用品メーカーのエスター株式会社と包括連携協定を結び、地域の活性化や魅力発信につながる連携を進めてきた。</li> <li>その直後に迫る大阪・関西万博を「未来社会を試す共創実験」の場と位置づけ、「福井県ならではの体験型企画」を官民で検討し、「恐竜×かおり」というアイデアをかたちにした。</li> <li>恐竜ブランドと生活者に身近な香り技術を掛け合わせることで、新しい体験価値と官民連携の未来像を試した。</li> </ul>	
島根県江津市	<p><b>【地域共栄に取り組む企業との連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>江津市は、ビジネスマッチングで出会った大丸松坂屋百貨店と意気投合し、大丸松坂屋百貨店のメタバース事業の技術を使ってシティプロモーションを行う共創プロジェクトを開始。</li> <li>「メタバースで有名なまち・江津市」を目指し、石見神楽のメタバース化に官民連携で挑戦。大阪・関西万博での VR 体験を通じて、江津市や石見地方への実際の来訪・観覧に繋がった。</li> <li>今後は、メタバース関連技術を活用して、地方でも IT 人材が育ち活躍できる環境づくりを進める地方創生・人材育成モデルの構築を目指している。</li> </ul>	

万博を契機とした取組とは、「コミュニティ強化・産業活性化・ごどものみらい」を中核に据えつつ、相手国や外部パートナーとの本気の共創を通じて、地域側の企画力・調整力・発信力を総合的に鍛え上げたプロセスである。

その過程で構築された「人・経済・地域を結ぶつながりの仕組み」と、「国際協働をマネージする実践知」、「地域を再編集した新しいブランド像」は、万博という一過性のイベントにとどまらず、今後の地域課題の解決、新たな産業・観光・教育の展開を支える長期的な基盤として機能し始めている。

この基盤をいかに磨き続け、次のプロジェクトや世代へと接続していくかが、万博レガシーを真に生かすうえでの中心的な課題となっている。





令和7年12月  
内閣官房国際博覧会推進本部事務局

©Expo 2025